総合教育センターだより

Kyoto Prefectural Education Center

118

令和元年７月23日（火）
第118号（通算201号）
京都府総合教育センター
TEL：075-612-3266

学びの直送便

～　６月講座編　～

授業に活用しよう！
- **プログラミング教育指導者養成**
- **アクティブ・ラーニング**

夏休み、子どもの様子に注意しよう！
- **健康安全教育・地域連携**
- **ＳＳＷの役割**

6/13｜6/20　108　109　初任者・新規採用者研修共通「健康安全教育・地域連携」講座

講師：大阪教育大学附属池田小学校　荒川　真一　副校長
京都府教育庁指導部保健体育課
京都府教育庁指導部社会教育課

健康安全教育、防災教育の意義と役割、社会教育を推進するための重点課題について講義・演習を通して学びました。

健康安全教育では、食物アレルギー疾患への対応として、エピペントレーナーを使った実習を行いました。

防災教育では、大阪教育大学附属池田小学校の荒川真一副校長から、事件当時の状況や毎年行っておられる不審者対応訓練等について説明いただき、安全・安心な教育環境を構築するための教員の役割について学びを深めることができました。特に、**「施設や設備だけで子どもたちを守るのではなく、教職員の意識が子どもたちを守る」**というお話から、教員自身が名札を身に付け履き物に気を付けるなど、**日常のあらゆる場面において「児童生徒を守る」視点をもつことの重要性について認識を深めることができました。**

研究協議の様子

6/13　302　小学校プログラミング教育指導者養成講座シリーズⅠ・Ⅱ

講師：特定非営利活動法人みんなのコード
福田　晴一　主任講師

小学校プログラミング教育指導者養成講座シリーズⅠでは、プログラミング教育必修化の背景と現状、新学習指導要領・手引きの解説など、特定非営利活動法人みんなのコードの福田晴一主任講師に御講義いただきました。また、プログラミング模擬授業体験では、「総合的な学習の時間」、５年・算数「正多角形」について実施していただき、「ルビィの冒険」や「Hour of code」などの**教材を体験することができました。**各学校で実施する指導案の検討をWorld Cafe形式で行いました。次回のシリーズⅡでは実践発表をします。

プログラミング的思考とは・・・

○ **プログラミング的思考を育む！**　✕ プログラミング言語の授業

自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを**論理的に考えていく力**

6/7　440　アクティブ・ラーニング実践講座ー演習から学ぶ授業づくりー

講師：産業能率大学　小林　昭文　教授

産業能率大学の小林昭文教授の御講義と演習に加え、相楽東部広域連合立和束中学校の先生から実践報告をしていただきました。

アクティブ・ラーニング型の講義・演習を通して、**その効果や利点を体感し、注意点等、受講者にとって気付きの多い講座となりました。**また、「現場ですぐに活用できる」ワークシートとその展開の仕方を実践例を交えて紹介していただいたことで、**研修内容の活用意欲も高まりました。**

実践報告の様子

POINT

● アクティブ・ラーニングを目的ではなく**手段**として活用すること！

対象となる学級　→　**アクティブ・ラーニング**　→　**授業のねらい**

- **どんな力をつけたいのか**
- **どのように育てていきたいのか**

- **どんな声掛けをするのか**
- **どんな課題を設定するのか**

6/24　855　スクールソーシャルワーク講座ーＳＳＷの役割の理解とその実践ー

講師：大阪府立大学　山野　則子　教授
前京都府まなび・生活アドバイザースーパーバイザー
山本　千世子　先生

前京都府まなび・生活アドバイザースーパーバイザーとして活躍された山本千世子先生、内閣府子どもの貧困対策に関する有識者会議委員等を務めておられる大阪府立大学の山野則子教授の御講義と異校種混合のグループによる研究協議を行いました。**チームとして子どもを支援する大切さについて具体的に理解を深めることができました。**

山本千世子先生

・「ＳＳＷは、子どものために環境を整えるのが仕事」という話がＳＳＷの職務を理解するのに分かりやすかった。

・様々な立場から見た子どもの情報を1枚のスクリーニングシートにまとめて、子どもを取り巻く課題を見つける方法は、まさにチームでアプローチしていく有効な手法だと感じた。担任の立場ではなかなか難しいが、それができるのがＳＳＷの役割なのかなと感じた。

連載「研究最前線」　教育相談部①

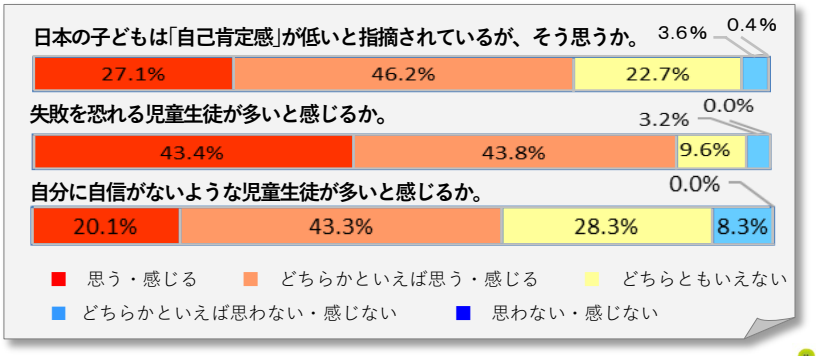
「折れない、しなやかな心」を育むために

・「**日本の若者は諸外国に比して自己を肯定的に捉えている割合が低い**」（平成25年度 内閣府の調査）
・「**自信がない子どもが増えているのでは？**」「**失敗を怖がる子どもが増えているのでは？**」
（平成27～29年度 当センターの小学校教職員対象に行ったインタビュー調査）

この２つの調査結果から先生方はどのようなことを感じられますか？

自己肯定感については、教育再生実行会議(2017)においても『自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子供を育む教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力の向上』(第十次提言)が示されています。

こういった動向から、教育相談部では、昨年度、教育相談講座を受講された教職員を対象に「自己肯定感等に関する意識調査」を実施しました。アンケート結果からも、先生方が児童生徒の自己肯定感の低さや失敗を恐れる児童生徒の多さを実感していることがわかりました。



これまでも教育において自己肯定感を育てることについて、多くの教育実践や研究がなされてきたものの、依然として課題が残されているのが現状です。

一方、近年、困難な状況に適応する心理的な力を指す「レジリエンス」という概念が注目されています。レジリエンス(resilience)は「回復力・復元力・弾力性」等の意味があり、失敗から立ち直る力にもつながるものと考えられます。成長の途上にある子どもたちにとって、様々な困難に直面したときでも、自分に適度な自信をもち、失敗を恐れずに挑戦すること、そして失敗してもしなやかに回復することが大切で、このレジリエンスという概念は自己肯定感とも関連しているのではないかと考えました。そこで教育相談部では「自己肯定感をもち、心が折れても立ち直ることができる児童生徒を育むために教職員がどう関わればよいか」ということを１つの柱とした研究を平成30年度から進めています。9月のセンターだよりでは、今回に引き続き昨年度実施したアンケート調査の結果を一部紹介します。

Webコンテンツを活用して「働き方改革の推進」を力強く後押し!

７月１日（月）から「Webコンテンツ視聴研修」の各種動画の視聴を再開しました。

この研修は「教員の資質能力向上プラン～これからの時代に対応した新しい人材育成策について～」における重点施策である「子育てとキャリア形成の両立への支援」も目的とし、育児休業中の職員も対象として実施するものです。

Webコンテンツ視聴研修や、Webコンテンツを活用した校内研修の活性化など**「働き方改革の推進」**に役立てる方法を紹介します。

※コンテンツにより視聴方法が異なります。各コンテンツの視聴方法や利活用の方法については下に示したITECの該当箇所にマニュアルを掲載しています。育児休業中に自宅でコンテンツを活用する場合にもマニュアルを御覧ください。

活用法１
Webコンテンツ視聴研修で時間を有効に活用！

見る　対象Webコンテンツを視聴

管理職に連絡の上、指定Webコンテンツを２つ視聴し、最新の情報を学びます。

深める　レポート作成で考えを深める

１コンテンツにつきレポートを１枚作成し、合計２枚のレポートを管理職を通して総合教育センターに提出します。

【提出期間】
令和元年11月１日（金）～12月25日（水）

活用法２
Webコンテンツを活用して校内研修を活性化！

見る　Webコンテンツを視聴

Webコンテンツを利用し、最新の情報を教職員で共有することができます。

深める　演習・研究協議で研修を深める

視聴した内容について、演習や研究協議を行い、共通理解を深めることができます。

ITECからのWebコンテンツの視聴はこちらから
http://www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/cms/?page_id=435